
報告者名	兼城 糸絵	被調査者生年	なし
調査者名	高倉 浩樹	被調査者属性	なし
補助調査者	兼城 糸絵	(参与観察調査のため被調査者の情報なし)	

はじめに

今回の調査は、山元町天神社の奥の院の金庫を開ける開帳行事にかかわるものである。行事のため、現場での聞き取りを加えながらも、観察した内容を地の文で表現している。天神社の奥の院(お社の奥の部屋)には金庫があり、そこには御神体および縁起文書が入っているという。ところがこの金庫の鍵の保有者であった前中浜区長さんは津波でお亡くなりとなり、鍵も紛失した。一方、神楽保存会のほうでは復興の1つとして神楽の由来について文書を確認したいという希望があった。このため神楽保存会の方々が積極的に働き掛けることで、金庫の鍵の合い鍵を制作した。そして区長や神主、氏子総代などにも声をかけて、開帳行事をとりおこなうことになった。

開帳行事の観察

8月8日午前9時すぎに山元町にある天神社へ到着した。すでに6人の男性が天神社へ続く階段やその付近で草刈りと清掃をしていた。内訳は、区長さん1名、副区長1名、氏子総代2名、神楽保存会2名である。調査者たちは階段を上っていき、保存会の方へ挨拶をした後、社殿周辺の草刈りと清掃に加わった。草刈り機を利用して手際よく草を刈っていく傍ら調査者たちは草を集めてどけていった。約30分ほどで境内に生えていた草が綺麗に刈られ、石造りの道が姿を現した。この石造りの道は階段を上ったところから天神社まで続いている。その天神社に向かって右手前には薬師堂があり、天神社の左側には神輿を納めた神輿殿がある。薬師堂は平成20年に改修工事が行われており、立派な屋根が特徴的である。この屋根は門間工務店に作ってもらったという。これを手がけた大工は津波で流されてしまったが、瓦職人は現在でも健在だという。

10時頃、草刈りを終えたメンバーが天神社前に集まった。最初に神主であるCTさんから今日の御開帳式についての説明があった。まず、金庫が入っている奥の院の格子ドアをあける。それから軽く掃除をし、榊をたて塩や水を供えるという。その後、金庫を開け、金庫の中にある桐の箱を開ける。桐の箱を開ける時は黙祷をし、それからCTさんが中を確かめる。確かめつつそれを掃除して桐の箱を閉じ、黙祷を解く。その後は自由にしようという行程で実施するという。CTさんは白衣を持参してきたとのことで、桐の箱を開ける時には衣装に着替えると述べていた。ただ、神楽保存会のTKさんは、今回参加しているメンバーには金庫を開けた経験のない者ばかりであるということ、鍵は100パーセント開くことを保証するものではないということを強調して述べていた。鍵は金庫の購入先である農協に頼んで複製を作ってもらったのであるが、それは100パーセント解錠することを保証するものではなかったという。そのため、どうしても開かない時は役員で会議を行おうということになった。

打ち合わせを終えた後、メンバーは社殿内に上がり、必要な道具を準備し始めた。塩や水、榊をいれるための花瓶の洗浄や不足分の榊の摘み取りなど、手際よく準備を進めて行った。CTさんは奥の院に設置された木製の格子戸を開けて軽く掃除をし、水や榊等を金庫前に供えていった。社殿内部は平成4年に作ったらしく、比較的新しい感じがした。久しぶりに社殿を開けて掃除や整理をしたからか、平成10年度の天照大神の名がかかれた札などが出てきた。

一通り掃除が済むと、メンバーは社殿に上がり準備されていた座布団に座した。いよいよ金庫のカギを開けることになり、どのようにカギを入れるかについて指図する声が飛んだ。後に鍵を見せてもらったが、通常の鍵とは異

なる形状であった。やがて、ガチャッと言う音があり「開いた！」という声があがった。鍵が開いた瞬間は皆から安堵の声があがり、TKさんは「よかった、よかった」と嬉しそうだった。

それから皆が改めて座したところで、区長からの挨拶が述べられた。その内容は、以下の通りである。今朝は雨が降ってどうなるかと思っていたが、無事に御開帳式ができたことを嬉しく思う。昨年の3月11日に区長ともども鍵が流失した。どうしようかと考えていたら高山さんにこんな方法があるよと（鍵を作ることを）提案されて無事開帳の日をむかえた。これからも中浜神楽を続けていかなければならないという使命感もあるので、今後ともよろしく願います。

区長の挨拶に続いて、神楽保存会の副会長を務めるTKさんが改めてこれまでの経緯について述べた。その内容は以下の通り。

神楽保存会の副会長としてこれまで立ち回らせていただいた。昨年の秋に中浜小学校で神楽を運動会にて奉納するということで、THさんが非常勤講師として登録された。応援をお願いしたいとのことで、TKさん自身も手伝いということで参加した。THさんは仕事をしている傍ら神楽を教えているが、子どもたちへの指導は通常学務の時間に行うため大体が日中である。そのため、職をもっている方の指導は難しいということで、当時無職だった私を含めて3人が集まって練習を開始した。その時に、「TKさん、太鼓の購入を援助してもらえるところがあるらしいですよ」という話を先生からいただいた。締め切りまで3、4日しかない上にどのように書いていいのかわからなかったが、支所にて申込書を書き上げた。それから正月をすぎて決定がくだされたとの知らせを受け、3回ほどヒアリングに参加した。その結果、大太鼓を2丁（報告者注：太鼓のサイズは2尺と106寸と述べていたが、後者については3尺5寸サイズのことを述べているのだと推定される）、小太鼓を3丁、篠笛を7丁援助してもらった。今年の春の運動会には、それらを使わせて頂き、舞いを奉納した。我々はまだ練習はできない。衣装と面がないので神楽そのものを活動することはできないが、現在役場とも話をしているところである。

また、神楽に関する書類関係が流失している。CTさんの家に何かあるかもしれないと相談して家捜ししてもらった。その結果、出てきた書類を東北大学にお願いして、我々が読めるように解読してほしいということで依頼している。その時は残念ながら、神楽に関する書類は出てこなかった。ただ、金庫の中にもしかすると神楽に関する文章が出てくればいいと期待している。

20年前にこの奥の院を作って奉納しているが、その金庫の提供先は農協であった。そこで農協にお願いして金庫の型番や鍵の形を調べて、スペアキーを作成した。ただ、その時に100パーセント開くという保証はないと言われていたが、作ってみて開くか開かないかを試してみようと今日をむかえた。今日金庫が開いたので、大変安堵している。

TKさんの報告が終了した後、高倉先生による自己紹介を兼ねた調査の概要報告また、現在調査を依頼された文書に関する報告を行った。その文書の解読に大きく期待を寄せている様子がうかがえた。

TKさんや高倉先生が報告を行っている間、CTさんは白装束への着替えを済ませていた。CTさんが祭壇の前に座り、後ろに区長、氏子総代、神楽保存会の代表が座った。その他のメンバーはそのまま座敷内に座っていた。金庫のドアが完全に開けられると、その中には上段に桐の箱が、下段には鍵がついた引き出しがあった。下段の鍵は作っていなかったために、開けられなかった（鍵が2つあると農協の職員に言われていたが、何のことがよくわからなかった。こういうことだったのか、とTKさんが述べていた）。そのため、今回は御神体が入った桐の箱のみを世話することになる。CTさんによると、金庫の下段には中浜天神社の由来書と先代の神主であるSさんの代に新しく作り替えた巻物、そして神楽の動きについて書かれた由来書、さらには代々の神主の系譜図（先々代までを書いたもの）が入っていると思う、と話した。

金庫を完全にあけて中の御神体を世話するにあたって、まずCTさんと区長、氏子代表、そして神楽保存会の代表の3者が逆三角形のかたちをしたマスクを装着する。それから二礼二拍一礼ののちに、黙祷が始まった。その間、CTさんが桐の箱を開け、中にある御神体の手入れをしている。その間中CTさんの後ろに座る参加者は頭を垂れて黙祷を続けた。黙祷はCTさんが手入れを終了するまで続いた（11時05分頃まで）。

その後、区長さんたちは奥の院の前に進んで参拝した。金庫の前には参拝者からみて右に塩、左に水がおかれ、この2つをつかって神様と自分両方を清める。2礼、2拝し、塩水でお清めを行い、最後に1礼の順序。塩水で清



写真1 天神社での草刈掃除



写真2 白装束に着替えた神主のCTさん

めるのは、ご神体が海の神様であることに由来。本当は参列する全員が白装束を着る必要がある。この儀式がおわったのは11時15分だった。

これらがおわると、マスクを外したCTさんによって御神体についての報告が行われた。

桐の箱には御神体が無事入っていた。御神体が倒れないようにと箱を御神体のサイズに合わせてギリギリに作っていたので、手がようやく入るほどの隙間しか開いていない。御神体には紫の布を2枚ほど着せているが、布に乱れ等はなかった。ただ、正面（神社の入り口）を向いて入れていたのだが、開けてみると全く反対の方向をむいていた。地震が起きた際に揺れたせいで、桐箱の中で御神体が回転したのではないかと。桐の箱自体は回転できないようになっており、金庫は桐の箱が動かないような寸法のものを選んだつもりである。また、桐の箱自体も左はじに移動しており、それを奥の真ん中の方に戻した。桐の箱にはフック状の鍵をつけてあるのだが、それが緩くなっているようだった。今後また金庫の鍵をあけるのであれば、それに合わせて桐の箱の扉が開かないように工夫をしたい。以前、神輿の中に御神体を入れる時は休憩の都度に中の御神体が倒れていないかとチェックをしていた。頻繁に開けていたせいで金具のところが弱くなっていた。それで替えなければならないと思っていた。

また、右側の方に奥の院が設立される以前に使われたお社があった。これは祭典の際に、御神体の前に設置されるかたちで使われたものである。

昔はケンカ神輿といって、マチの方の神輿と何やらやっていた。20~30年前の話だが、竹駒神社に出向いた時にそこの方に「昔から御神体そのものを神輿の中に入れて集落の中を回ってきた」という話をしたら、相当驚いていた。その方が言うには、普通だと鎮守の存在として御神体本体は社に置いたままにして、その代わりに物を神輿に入れていたのだという。

以上のように、CTさんは一通り説明を終えた。それから（11時25分頃には）皆は神酒や茶を配り、雑談をしつつ軽く飲み始めた。報告者は鍵の番号を撮影するように頼まれていたので、その撮影などを行った。番号には判別しがたい文字が含まれていたため、金庫の型番を元に改めて農協に問い合わせをしてみようということになった。ちょうど昼時であるということで、金庫を締め、片付けをして解散しようということになった。

天神社の右となりには、少し高くなっている場所があり、そこには山の神が祀られているという祠がある。その祠は木造であり、調査者たちがみたときには真横に倒れていた。これはおそらく地震の時に倒れたのではないかと言われていた。中にはもともと3体の像が祀られていたようである。木造であるし直せそうだということで、皆で協力し祠を元のように戻した。祠を直した後、3体の神像は中に納められた。その祠がある場所からは海とかつてあった集落跡地を見下ろすことができる。保存会のSSさんは草が生い茂った集落跡をみながら「あの赤いコンテナが横たわっている場所に俺の家があった」などと話していた。地震が起きた日に天神社にも数人がかけこみ、

2日ほどそこに居続けたようである。天神社は高台になっているため直接津波の被害に遭うことはなかったが、階段の中腹より下あたりまで波は押し寄せてきたのだという。

その後、参加者たちは昼食をとるため、坂元ドライブインへ移動した。そこで調査者も共に昼食会に参加させていただき、神楽保存会に関する話を聞いた。



写真3 無事開帳の行事を終え、お神酒でお祝い



写真4 坂元ドライブインでの会食・懇談会